

# ホームズ君「構造EX」 床倍率アトバイス (住宅性能表示・耐震等級)

下記の **A** から **E** の順番で検討する。

## 「必要床倍率」を小さくする

- A** 耐力壁線間距離を短くする
- B** 最外周壁線を◎耐力壁線とする
- C** 上下階の耐力壁線の位置を揃える

## 「平均存在床倍率」を大きくする

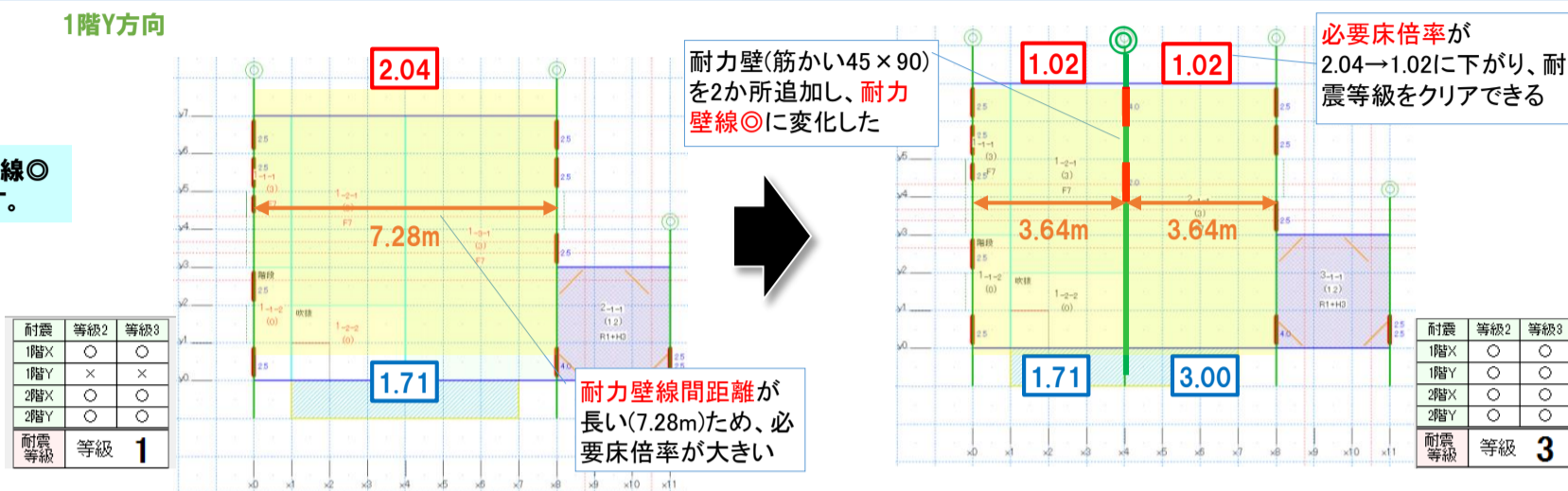
- D** 床区画内に建物外部(床倍率0)が含まれないようにする
- E** 屋根・床構面をより高倍率の仕様にする

凡例 対象床区画 必要床倍率 必要床倍率係数:  $\alpha$  平均存在床倍率

### A 「必要床倍率」を小さくする

#### 耐力壁線間距離を短くする

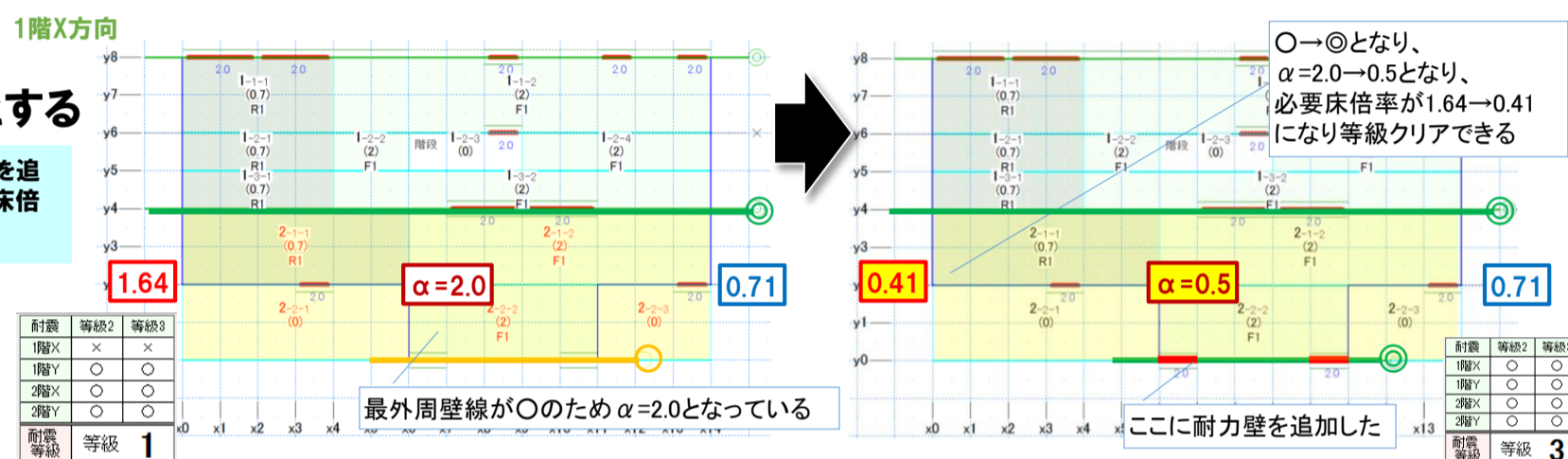
間仕切り壁に耐力壁を追加または移動し、耐力壁線◎を発生させることで耐力壁線間距離が短くなります。



### B 「必要床倍率」を小さくする

#### 最外周壁線を◎耐力壁線とする

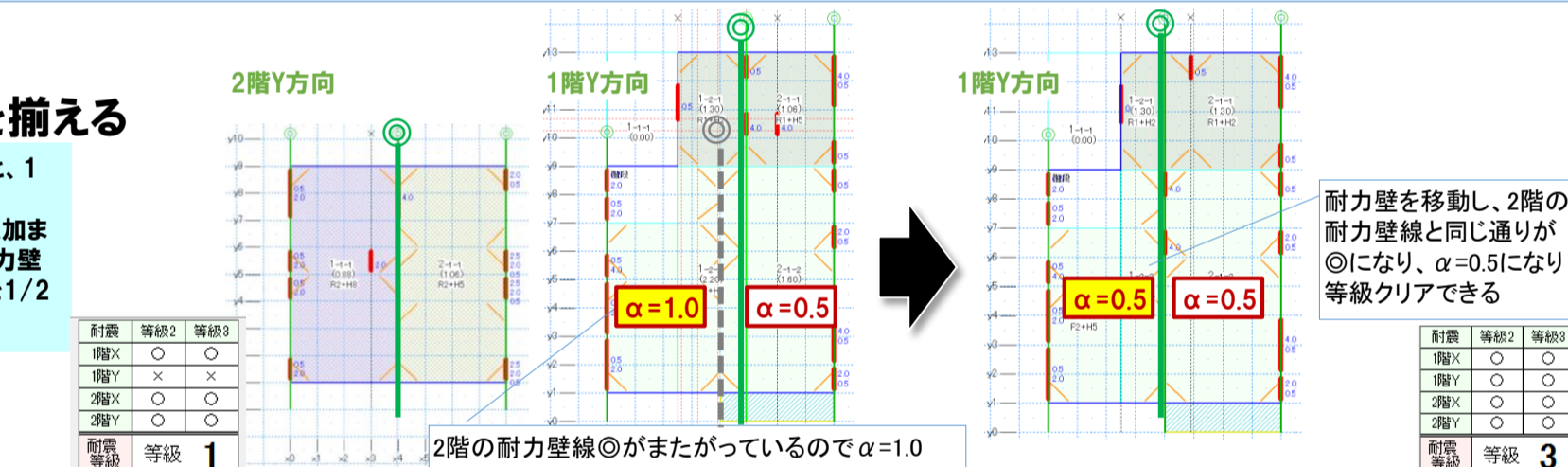
最外周壁線が(○)の場合は、外周線上に耐力壁を追加し(◎)にすることで、係数 $\alpha$ を2.0→0.5と必要床倍率を1/4にすることができます。



### C 「必要床倍率」を小さくする

#### 上下階の耐力壁線の位置を揃える

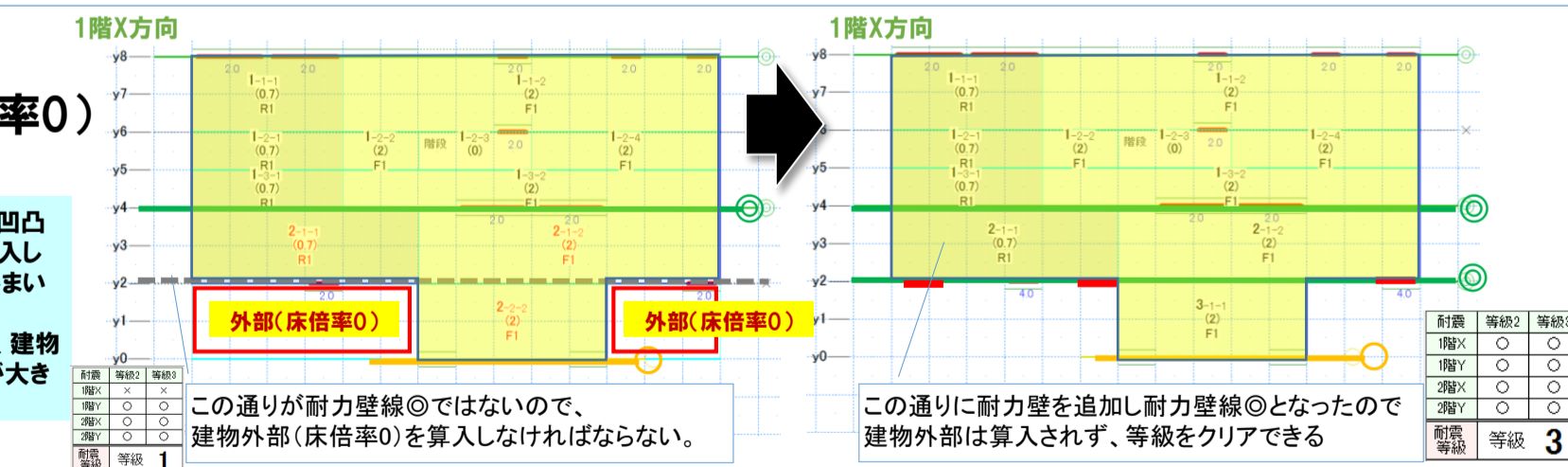
・1階の床区画上に2階の耐力壁線◎がまたがると、1階の係数 $\alpha$ は「1.0」となります。  
・2階の耐力壁線◎と同じ通りに1階に耐力壁を追加または移動し耐力壁線◎とすることで、上下階の耐力壁線が一致し、係数 $\alpha$ が「0.5」となり、必要床倍率を1/2にすることができます。



### D 「平均存在床倍率」を大きくする

#### 床区画内に建物外部(床倍率0)が含まれないようにする

・凹凸の根本の通りが耐力壁線(◎)でない場合、凹凸に隣接する建物外部の範囲を「床倍率0」として算入しなければならず、平均存在床倍率は小さくなってしまいます。  
・凹凸の根本の通りを耐力壁線(◎)とした場合は、建物外部の範囲を算入しないため、平均存在床倍率が大きくなります。



### E 「平均存在床倍率」を大きくする

#### 屋根・床構面をより高倍率の仕様にする

屋根構面や床構面に厚物合板仕様としたり、火打ち梁を多く配置します。

